

日本学術会議主催公開シンポジウム
熊本地震・三ヶ月報告会
閉会挨拶

2016年7月16日（月）

防災学術連携体代表幹事・公益社団法人土木学会前会長
廣瀬 典昭

防災学術連携体代表幹事、土木学会前会長の廣瀬でございます。

本日は長時間にわたり、日本学術会議主催、熊本地震・三ヶ月報告会にご参加いただきましてありがとうございます。閉会にあたり、共催者の代表といたしまして挨拶させていただきます。

本日も5月2日に開催しました緊急報告会と同様、テーマ毎に6つのグループに分かれてご発表いただきました。発災から三ヶ月を経て熊本地震に関する調査や分析が進み、発表学会は緊急報告会の17から23学会に増えました。地震発生直後より精力的に現地踏査や調査、研究活動を進めて来られました皆様に敬意を表します。

現地ではまだ避難活動を続けておられる方々が多数おられます。これから、台風期に向けた対策などを含めて、引き続き現地への支援が必要です。災害の原因の究明や、被災後の支援の在り方などには、解決しなければならない様々な課題がありますが、それらに取り組んでいくためには、多様な専門家や関係者、市民の皆さんとの協働が不可欠です。日本学術会議のご協力のもと、防災学術連携体は、学会間の連携を促進することにより、情報の共有や社会に対する情報発信に努めてまいります。8月27日と28日には、内閣府、防災推進協議会、防災推進国民会議が主催する防災推進国民大会に参加して、日本学術会議とともにシンポジウム、ワークショップ、およびポスターセッションを行います。これも学会連携や市民との協働に向けた取り組みの一つです。

防災・減災の活動には、災害事象から得られた様々な知見や、復旧復興活動などの情報を共有し、それを各学会の活動に活用していくことが大切です。本日の各学会からの発表と議論が、今後の二次災害の防止や、被災地の迅速な復興に貢献するとともに、我が国全体の減災・防災に資すること、同時に、防災学術連携体の活動が次のステップに進んでいくことを期待します。

最後に、被災地の復旧が迅速に進み、普段の生活が一日も早く取り戻されますことを、心よりお祈り申し上げ、閉会の挨拶とさせていただきます。

本日はどうもありがとうございました。

以上